地雷問題解消への可能性と限界～地雷廃絶運動の道～

外国語学部ポルトガル語学科４年　愛須麻美

現在、全世界では推定で 6000～7000 万個の地雷が埋められている。国際赤十字の調べでは、毎日約 70 人が地雷を踏んだり、拾い上げるなどして、大怪我を負ったり、命を落としたりしている。20～25 分に１人のペースで、世界のどこかで誰かが地雷の被害に遭っていることになる。

日本においても５年前には大量の地雷を保有していたという事実があり、関係がないとは言い切れない。世界的に見ても、難民問題や貧困問題の解決を地雷の存在が非常に困難にしているなど、このまま放置し続けるわけにはいかない問題である。

そこで本論文では、地雷を廃絶するための運動に焦点を当て、現在までに失敗した運動について触れつつ、主に成功した運動について述べていく。そして、それぞれの失敗要因と成功要因を考察する。そこから地雷廃絶運動の可能性と限界について模索し、個人レベルで何ができるかのヒントを与えることが目的である。

そして、その結果は以下の通りである。筆者は大きく分けて三つの限界を感じている。一つ目は、条約に関する問題である。それは、地雷の定義や、条約不履行時の場合の曖昧な対処のことを指す。二つ目は、犠牲者に対する資金支援の問題である。例えば、ある国でテロが起これば、その国へ資金援助をし、またある国で内戦が終了すれば、その国へ援助をするということである。そして結果的に年によって資金額に大きな差が出てしまう。これが現状である。しかし前述したように、犠牲者支援は長期的な視点に立ったものでなくてはならない。そして三つ目は、民衆やメディアと、NGO などの地雷廃絶運動の間にある認識の違いの問題である。現在のままでは世界のごく一部の人たちが活動するという形は変わらない。地雷問題が未だ解決されていないことを一人一人に認識してもらう必要がある。これらに対する策を講じなければ、地雷問題を解消させるのは難しいだろう。

オタワ条約成立は、地雷問題の終わりを告げるものではなく、むしろ始まりである。加盟国は条約批准という約束をし、そこから地雷廃絶運動が始まるのである。地雷問題が解消する時、それは地雷がこの世界からなくなった時ではない。地雷による犠牲者がいなくなった時である。まだまだ地雷廃絶運動の道は続いていく。その際、地雷問題への共通認識を持つことが非常に重要である。オタワ・プロセスの成功が示すように、共通の思いは連帯を強くする。一つ一つ成功を積み上げ、真の成功を掴み取る日、それを遠い日にするのも近い将来にするのも私たち次第である。

【主要参考文献】

長有紀枝（1997）『地雷問題ハンドブック』自由国民社
地雷廃絶日本キャンペーン編（2007）『夢の実現に向かって―地雷と闘った 10 年の記録』
神保哲生（1997）『地雷リポート』築地書館